



2026.8.3 大栗川縄文クラブ
堤 直樹

縄文時代と世界史の比較年表

出展：北海道・北東北の縄文遺跡群 <https://jomon-japan.jp/learn/jomon-culture>

年代*	時代区分		主な出来事	世界の出来事
紀元前	旧石器時代		細石器文化が日本列島に広がる	北京原人が活躍する
約13,000年				ラスコー洞窟の壁画が描かれる
約9,000年	縄文時代	草創期	土器や石鏃の使用が始まり、定住化が進み、ムラが出現する	
約5,000年	縄文時代	早期	気候の温暖化が進み、海水面が上昇する(縄文海進) 貝塚が出現する	長江下流域で稲作が始まる
約3,000年	縄文時代	前期	円筒土器文化の成立 集落の数が増え、地域を代表するような拠点集落が現れる 漆の利用技術の発達	中国文明の始まり メソポタミア文明の始まり
約2,000年	縄文時代	中期	大規模な拠点集落が発達する ヒスイや黒曜石等の交易が盛んとなる	クフ王のピラミッド建設 インダス文明の始まり
約1,000年	縄文時代	後期	大規模な拠点集落は減少し、集落の拡散化、分散化が進む 環状列石が出現する	ハンムラビ法典ができる 殷王朝の成立 ツタンカーメン王即位
約400年	縄文時代	晩期	亀ヶ岡文化が栄える 遮光器土偶や土面など祭祀の道具が多く作られ、装身具類も多様となる 北部九州に稲作が伝来する	春秋時代
約300年	弥生時代		吉野ヶ里遺跡が栄える	秦の中国統一 コロッセウム建設

cf. 年代*に関しては諸説あります。(例：国立歴史民俗博物館が2002年に弥生時代のはじまりを紀元前10世紀ごろであると発表)

世界の四大文明と 日本の縄文時代 (Correct Chronology)

新石器時代初期
(Early Neolithic)

世界の四大文明
Four Great Civilizations
(Correct Chronology)

転換期

鉄器時代の到来と各文明の変容
(Advent of Iron Age & Civilizational Shifts)

メソポタミア文明 盛期
(c. 3000-2000 BCE)

エジプト文明 盛期
(c. 2700-1100 BCE)

インダス文明 盛期
(c. 2600-1900 BCE)

中国文明 盛期
(c. 2000-1000 BCE)

Eastern Zhou dynasty
(Warring States)
philosophers

c. 4000 BCE

c. 3000 BCE

c. 2700 BCE

c. 2600 BCE

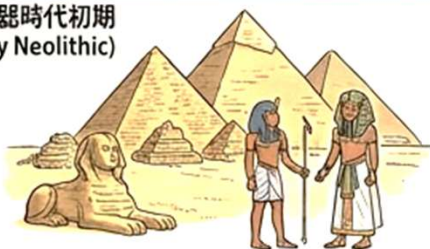
c. 1500 BCE

c. 1000 BCE

c. 500 BCE

c. 300 BCE

新石器時代初期
(Early Neolithic)



鉄器時代の到来と各文明の変容
(Advent of Iron Age & Civilizational Shifts)

縄上の
(Yayoi)

縄文時代 (Jōmon Period): **13000** BCE ~ 300 BCE



縄文文化の全容 (Overall Jōmon Culture): 非常に長い継続期間 (Extraordinarily Long Duration)

四大文明よりも縄文時代の方が古いのに、 なぜ注目度が低かったのか？

[文明の定義]

歴史学では、文字や都市、階級（身分の差）が揃ったものを「文明」と呼ぶ。

◇ 古代エジプト文明: 文字、巨大なピラミッド、国家、王、計画的な農耕があった。

◆ 日本の縄文時代: 豊かな自然の恵みで暮らす「狩猟・採集・漁労」の社会で、大きな文字や国家の記録がない。



[時代の区分]

縄文時代は「原始（先史）時代」に分類され、エジプトなどの「古代文明」とは別のくくりになる。



(AI)

縄文時代は、なぜ戦いが少なかったのか？

時代(人口)	物 証	道具や流行り	生 活	備 考
旧石器時代 (約3,000人～1万人)	岩宿遺跡	打製石器	食べ物を求め移動生活。 生か火で焼いて食べる	現在よりかなり寒冷で乾燥していた。
縄文時代 (約2万人{早期}～26万人{最盛期の中期})	三内丸山遺跡・大湯環状列石・加曽利貝塚・尖石 石器時代遺跡・多摩 ニュータウン遺跡など	縄文 土器 弓矢 魔よけや食 土偶 料の豊かさを祈る	竪穴住居で定住 ある程度の航海技術も	農耕ではなく狩猟採集の生活だったので蓄える必要性も少なく、縄張り争いはあったかも知れないが、大規模に争う意味がなかった。 「アニミズム」（自然物・現象に霊的な力が宿ると考える、原始的な宗教観）
弥生時代 (約59万人)	登呂遺跡・吉野ヶ里遺跡 魏志倭人伝 邪馬台国	青銅器や鉄器 銅鏡や銅鐸	貧富や権力の差 米作り	備蓄したコメなどの奪い合いや稲作のための土地の奪い合いも。 縄文時代の終わりころから地球が少し寒冷化し、米作りにも支障が出てきた。朝鮮半島からも渡来人が来るようになった。
古墳時代 (約400万人)	古墳	埴輪 須恵器	釜戸の登場・馬の利用	お墓の大きさに自分の力の強さをアピール
飛鳥時代 (約500万人)	正倉院宝物 大和政権	仏教 律令国家	{大化の改新}租(収穫の約3%)・庸(都で労働か布納付)・調(布や絹などの諸国の特産物)	権威の誇示は、大きな墓よりも寺院を建立で。

武力紛争が起きる根本的な原因

認定NPO法人アクセプト・インターナショナルのホームページから
<https://accept-int.org/column/cause-of-conflict>

- (A) 「経済的な欲求」 (経済学者ポール・コリアーとアンケ・ヘフラー)
・・・特定の人々が、民族や宗教などのアイデンティティを
持ち出し、阻害要因を仲間に訴える
- (B) 「集団・民族の不平・不満」 (政治学者エリック・シダーマン)
・・・個人レベルではなく、集団・民族として不満が高まると、
そこから紛争に発展する

どちらにしろ
片方は我慢できない
不平等感
を抱いている

ホドホドに

諸説ある上、複合的なこともあるが、民族・宗教・思想等の違いそれ自体は武力紛争の「原因」ではなく、それを始める「手段」として使われているに過ぎない。

飢餓から逃れるために
他者の備蓄した穀物を
奪うことから始まった。



なお、同調者を募る際、異なるグループから構成員を募集するよりも、同じ属性のグループから募集する方が容易で、集団の結束が易いとの理由で、『民族が多様な国家ほど紛争の起きる確率が低くなる』との見方もある。

「正しいのは自分たちだ。相手は間違っている」という認識や、「こちらの方が強いから勝ち目がある」といった価値判断などで悪化して行く。